

R-18  
ADULT  
ONLY



人妻マルティナさんの  
冒険者復帰録  
♡

欲求不満な  
エロエロ人妻ボディが  
若い男とパーティー組んで  
寝取られない訳無いよね

# 人妻冒険者・マルティナ

ジョブ…フェンサー  
レベル…33

家計の事情で冒険者に復帰した人妻さん。現役の頃はパーティを組み、刺突武器を操る軽装の戦士として活躍していた。若い頃と変わっていないと言う夫の言葉に乗せられ、押し入れに眠っていた昔の装備を引っ張り出した彼女。サイズが少しきつくなった現役時代の装備に身を包み、夫のために再び冒険者として稼ぐつもりである。



夫の能天気な笑顔に見送られながら私は、ふたたび冒険の世界へと舞い戻ることになった。



いや、昔を思い出すなあ



久しぶりの冒険者ギルド…訪れたのはいつ以来だったかしら？

ちろっス  
俺も一人なんスけど  
一緒にパーティ  
組みませんか

まずはクエスト  
いや…仲間かしら

そういえば  
女性冒険者が  
誘われやすいのも  
相変わらずらしい

ギルドに入ると私はまず  
依頼が貼られている  
掲示板を見上げた。  
昔と同じように、様々な  
クエストが目に入る。  
今は当然一人なのでソロ  
クエストを選ぶしかない。  
…が本来ソロは新人が  
やるモノなので、報酬は  
極めてマズい。  
やはり最低二人以上で  
パーティを組んで討伐系  
を受けたいのだけれど…。  
掲示板の前でそんな風に  
悩む私に一人の冒険者が  
声をかけてきた…。


えっやば！  
マジで美人さん  
っスね♡

私もブランクがあるとは  
いえそここのベテラン。  
こっちが引っ張らねばと  
気合を入れる。

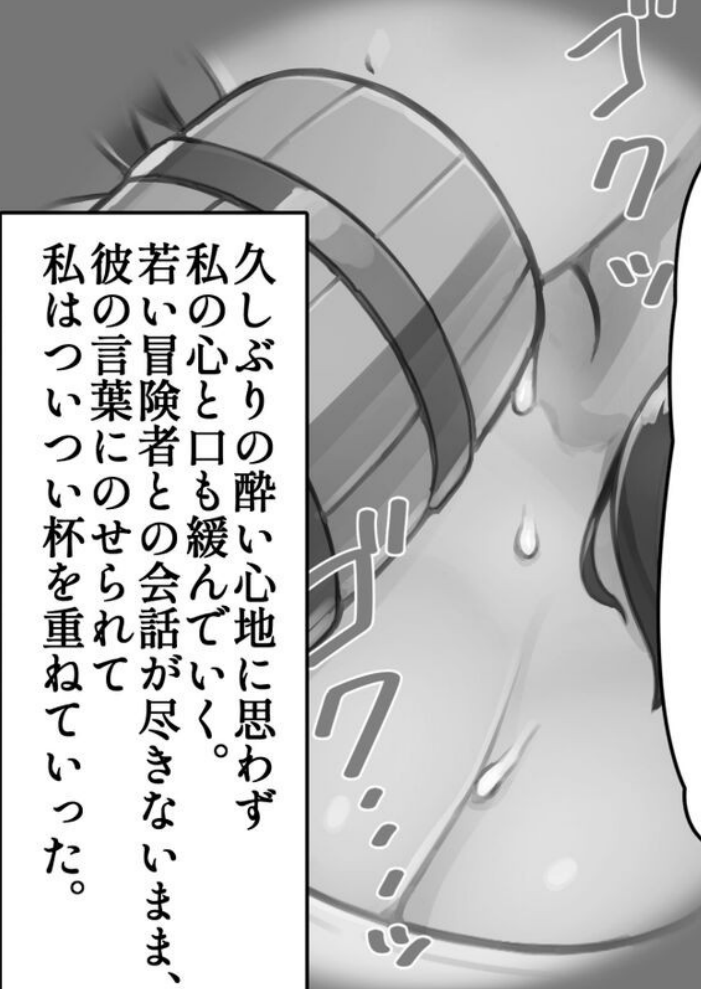
ちよつと不安もある  
けど、とりあえず  
組んでみようかしら

そんな少し緊張しながらの  
復帰クエストは無事大成功に終わり  
報酬の入った袋はずしりと  
重い音を響かせたのだった。

ドサッ




大成功したクエスト後の打ち上げが盛り上がるのは当然の事だった。宿屋の食堂兼酒場での宴は、昔の様に心を弾ませた。



まだまだイケるっしょ  
もっと注文するんで  
どんどん飲んじゃってくださいよ

久しぶりの酔い心地に思わず私の心と口も緩んでいく。若い冒険者との会話が尽きないまま、彼の言葉にのせられて私はずいづい杯を重ねていった。



いつ部屋に戻ったのかは覚えていない。いつもの間にか隣に彼も居て当然の様に私をベッドに押し倒した。だらしなく開いた股間を彼の指が妖しくなぞる

飲みすぎたせいで体に力が入らない。もがく私の唇は、そのまま彼にふさがれた。

ちよっ…  
ダメよ…

クパアッ♡

そんなこと言って  
もうこんな  
濡れてんじゃ  
ねーか

しかも  
もの欲しそうに  
指に吸いつい  
てんぞ？

お願い  
私には  
夫が…

おっ？  
中は結構  
きついね♡  
旦那さんと  
最近してないって  
マジみたいだなあ

私も抵抗しようと  
したけど  
でも彼の指が…  
私の中に…

へへ…  
俺が色々  
思い出させて  
やるよ

そ、それは…  
んっ♡

それで  
少しづつ体の  
力が抜けて  
しまつて…

まずは  
じっくり中を  
ほぐしてっ♡

うっっし  
これでトロットロ  
人妻ま○この  
出来上がり♡

あっ♡  
そこ…っ♡

しゅっ♡

しゅっ♡

しゅっ♡

トロットロ♡

トロットロ♡

しゅっ♡

クワッ♡

しゅっ♡

しゅっ♡

今度は俺のも  
気持ちよくしてよと  
自信たっぷりな彼が  
さらけ出したソレは、  
既に天を衝くかの如く  
そそり立っていた。  
久しぶりに見たオトコの、  
しかも今まで見た中でも  
最大級の雄々しさに  
思わず目を見張る。

嘘、でしょ…

この場を  
切り抜けるかも  
しれないわ

と、とにかく…  
昔みたいに口で  
抜いておさめれば…

そう思って私は、彼のおつきなおち○ぽを  
啜え、一生懸命にしゃぶった。  
久しぶりだったけど彼は気持ちよさそうな  
顔で喜んでいる。

おおっ!?

こられ  
ヤべえっ♡

もう出す  
ぞ…っ

へへ、上手すぎる



一度射精したと  
いうのに、彼の雄々しい  
肉棒は固く反り立った  
ままだった。  
そしてすぐ目の前で  
ソレが自分の中に  
突き立てられようと  
していた…。



うえっ  
人妻ま〇こに  
生挿入♡

お願い  
ほんとに  
だ、だめよ…  
あぁっ…♡



それにこの  
体の奥が  
疼くような

忘れていた  
この感覚…



いつ以来だろう…？

夫以外の生の…



だめえっ♥  
久しぶりの若いおち○ぽに  
イカされちゃううっ♥



ううっ  
固くて…  
太い♥

それに  
久しぶりだから  
声が出ちゃう

罪の意識すら塗りつぶす  
心地よい脱力感に身を委ねる。  
嬉々として私の胸に精液を  
浴びせる彼を見ながら、  
これで終わりだと  
私は内心安堵していた…。

ふうら  
まずは人妻ぱいに  
ぶっかけっ♥



うそ…!?  
まだ  
するの？

こんなの…  
おかしく  
なっちゃうっ♡

：私のそんな甘い考えは  
若い肉体のはち切れん  
ばかりの性欲にあっけなく  
押しつぶされていった。  
淡白な夫とは比較にならない  
程の暴力的なピストンに  
一晚中責められ続け…。

これくらいで  
へばんなよ  
奥さくん♡

おらっ  
もっかっ  
イけっかい♡

もう  
許してえ…



…気づけば私は体を  
のけ反らせ絶頂していた。  
下の階まで聞こえるような  
大きな声を上げながら…。

いや〜  
奥さんの体  
サイコーだったわ♥

魔物が縄張りを  
主張する時  
爪痕を残す様に…、

俺ら色々  
相性いいみたいだし  
このまま明日からも  
組もうぜ♥

…貪られ尽くした  
私のカラダには  
隅々まで彼の精液が  
こびりついていた…。

いや、昨日はやりまくったな、  
久々の大当たりだわ。  
名前はマルティナ、だったかな？

簡単なクエスト成功させてからの  
打ち上げで酔わせて即ハメ成功の  
復帰勢の人妻なんてチヨ口いね。  
しっかりしい体してやがるな。

またムラムラしてきたから  
石橋の下に連れ込んで…。

わ、若いから  
仕方ないわね…

スルツ

素直に従っちゃうムツツリ人妻さん。  
そんな風に誤魔化しても俺のち○ぽに  
ハマったのもろバレなんだよ

もっとしっかり  
挟めって

ムキムキ♡

ごめん  
なご...

目の前に突っ立って  
パイズリさせる。  
人妻の癖に張りのあるエロ乳だ。

やっぱり  
大きい...

ズッ♡  
ズッ♡  
ズッ♡

：なんて事を思ってそうなの  
スケベ顔で俺のち○ぽに  
釘付けになってやがる♡

んっ♡

レッ♡  
ズルル♡  
ズルル♡

ビッ♡  
ズッ♡  
ズッ♡

服の中にとっぷりと  
出してやった♡  
この後はもちろん  
このまま冒険に...

又チャア……♡

モワッ♡

……と思ったが予定変更。  
このままここでハメると  
するか。

グイ

えっ？  
ちよつと……  
何を!?

だめよこんな所で  
誰かに見られたら……  
ああんっ♡

おん♡

壁に押しつけ  
強引に  
挿入する。

口では嫌がっているが  
しつとりと湿った  
人妻ま〇こはすんなりと  
俺のち〇ぽを迎え入れた。

人の気配が  
石橋の上を  
通り過ぎる度に

誰かが  
橋の上に…

声が聞こえたら  
気付かれて…っ

手で口を押え  
必死に声を  
押し殺しては  
いるが

極上の人妻ま○こは  
ねっとりとし  
ち○ぽに吸いつき  
離さない。

こんな姿を  
見られちゃうっ♡




薄暗い橋の下で  
冒険者らしからぬ  
その豊満な体を  
満足するまで揺らす。  
こんな上玉を逃がす  
訳にはいかない。

後で荷物かも  
冒険者証でも  
あさるか

やべー  
めっちゃ出る♡

だめえっ♡  
そんな  
奥までえっ♡

逃がさないように  
色々調べておこう…。  
そんなことを考えながら  
俺は丸みを帯びた人妻の  
デカ尻にたっぷりと  
ぶっかかけてやった…。



あの日から、  
彼と組んだパーティーは  
ずるずると続き…。  
クエストが終われば…  
いえ、無くても毎晩  
宿で彼に抱かれる  
日々が続いた。

こんな事はイケない、  
夫に申し訳ないと  
思いつつも私は、  
彼との関係を中々  
切れないでいた…。

そんな悶々とした日々を  
過ごしていた私の前に、  
唐突に彼が現れた。  
いきなり家まで  
訪ねて来るだなんて。  
どうしよう…。  
私の中ではあくまで  
彼との関係は、  
冒険者でいるときだけ  
のモノだったのに。  
まさか家まで知られて  
いるだなんて…。  
私は、動揺を隠しながら  
彼は冒険者仲間だと  
隣にいる夫に紹介した。

いや、  
近くまで寄ったんで  
来ちゃいました♥  
あ、旦那さん？奥さんには  
いつもお世話になってます

何も知らない夫は  
冒険の話を知りたいらしく  
無邪気にも  
彼を夕食に招待してしまった。

う、嘘…  
どうしてここに!?



彼の冒険譚を  
楽しそうに聞いていた  
夫だったが案の定、  
すすめられるままに  
飲まされた挙句  
早々と机に突っ伏して  
寝てしまった。

あゝらら  
旦那さんも  
お酒弱いっすね

ああ…  
だめよ  
夫の目の前で

まあ、その方が  
都合がいいっすけど  
ね、奥さん？

……っ

なのにな…

ト  
ト

ド  
ド

ビ  
ク  
ツ

ム  
ニ  
ツ

じ  
わ  
あ

なのには私に...  
彼に触れられる  
だけで

フキゅ  
フキゅ

さてと旦那さん  
さっきは話さなかつた  
んすけど実は

ダンジョンだけ  
じゃなく  
アンタの奥さんの  
体も...

こんな風に  
隅々まで  
しっかりと

攻略しちゃって  
たんですよ♡

我慢...  
できなく  
なっちゃうの♡



ア  
ン  
タ  
の  
と  
違  
っ  
て

ズ  
リ  
ユ  
リ  
ユ  
ッ

おんっ

ズ  
リ  
ユ  
リ  
ユ  
ッ

ア  
ナ  
タ  
…  
も  
う  
私  
の  
お  
ま  
〇  
こ  
彼  
専  
用  
の  
形  
に  
変  
え  
ら  
れ  
ち  
や  
っ  
た  
…

奥  
ま  
で  
ち  
ゃ  
ら  
ん  
と  
届  
く  
ん  
だ  
よ  
ね  
♡

んっ  
おんっ

俺  
の  
ち  
〇  
ぼ  
デ  
ケ  
ー  
か  
ら  
さ  
っ

ズ  
リ  
ユ  
リ  
ユ  
ッ

ズ  
リ  
ユ  
リ  
ユ  
ッ

奥  
さ  
ん  
も  
コ  
レ  
気  
に  
入  
っ  
て  
る  
よ  
な  
っ  
♡

ズ  
リ  
ユ  
リ  
ユ  
ッ

ズ  
リ  
ユ  
リ  
ユ  
ッ



あ…  
中…に…?

え…?

んん…

げ…っ

グッホッ♡

やべ〜  
これ以上は  
さすがに  
起きる…  
よな

寝室で  
続き…  
しよ♡

ねえ…

どうせ  
一回中に  
出され  
ちやっ  
んだもの…

ドクン…♡

まさかそっちから  
言い出すのかよ  
まゝお互いもう  
我慢できねえよな  
♥

気が付けば私は  
自分から  
私たち夫婦の聖域である  
はずの寝室に  
彼を招き入れていた…。

そのまますぐに  
一糸まとわぬ姿で  
彼の首に手を回し  
貪るように  
お互いの舌を絡めあう。

そう…  
彼の言葉通り  
私は…





冒険者をやっていった時の  
なかば犯されるような  
強引なセックスと  
夫のそれでは比べるべくも  
無くて…

そんな昔の冒険者  
仲間達と全く同じ様に  
彼も私に囁くの…

中にたっぷり出すからな  
絶対に孕ませてやるぞ  
…って♥

厳しい冒険で培った筋肉質な  
巨躯に組み敷かれ  
嵐のような雄の律動を体の奥で  
一晚中受け止めたあの頃…





フルフル♡♡

——ごめんなさい  
アナタ…  
やっぱり私…

キョホ♡♡

これからも  
この極太おち○ぽ専用の  
ハメ穴奴隷として

はぁ♡♡

はぁ♡♡

はぁ♡♡

彼の冒険をサポート  
してイキたいの…♡

又キョ♡♡

グホ…♡♡



そうか  
くれぐれも魔物には  
気をつけてらっしゃい



ごめんなさいね  
今度のクエスト  
数日かかったちゃう  
みたいなの…



何も知らずに見送る夫に  
私は手を振り微笑む。  
アナタには秘密の  
私と彼との冒険…。  
まだまだ  
続いちやうかも、ね♥



ええ  
いつてきます  
アナタ♥

スル…♡



人妻冒険者マルティナさんの  
**冒険者復帰録**♡

欲求不満なエロエロ人妻ボディが  
若い男とパーティー組んで  
寝取られない訳無いよね

**R-18**  
ADULT  
ONLY



著者：しゅにく2  
Twitter:@syuniku2

無断転載及び18歳未満の方の  
閲覧・購入を禁止します。